

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第58号（令和2年5月発行）

令和元年7月に令和元年第1回定例会が、10月に第2回定例会が、12月に第3回定例会が開会され、一般質問では、各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

山本里香議員



主な質問項目

- ・「四日市港米軍艦船対応マニュアル」
- ・ 昨年の台風・高潮における被害と対策計画
- ・ 「いなばポートライン」開通1年と今後
- ・ 環境学習における高松海岸の利用

○「四日市港米軍艦船対応マニュアル」は、2003年に米軍海兵隊員を輸送する米軍チャーター船が四日市港を利用したことを踏まえて、翌2004年につくられたもので、米軍艦船の四日市港入港に際して、県民等への情報提供や外務省への核兵器搭載の有無の確認など必要な事項を定めており、その後、四日市港への米軍艦船の入港は皆無となった。今後も同マニュアルを堅持していく気概について伺いたい。

●米軍艦船の四日市港への入港に際しては、四日市港管理組合は港湾管理者として適切に対応する必要がある。同マニュアルは、管理組合として、米軍艦船の入港情報を得たときから、同艦船が出港するまでの間の対応を、的確かつ迅速に行うため、同艦船の港湾施設使用予定日のおおむね3週間前から出港するまでの間の管理組合の取組を時系列で取りまとめたものであり、核兵器搭載の可能性を有する艦船の場合には、マニュアルで、核兵器の搭載の有無の確認について外務省に文書で照会することになっている。管理組合が本マニュアルを整備した平成16年以降、当港において米軍艦船の入港実績はないが、今後、米軍艦船の入港の申入れや通告がある場合は、本マニュアルを堅持し、本マニュアルに沿って対応していく。

平野貴之議員



主な質問項目

- ・ 国際的観光ゲートウェイへの道を自ら閉ざす四日市港
- ・ 自転車文明をスマートに開化せよ

○四日市地区に比較的規模の小さなクルーズ船を受入れることになれば、乗客も富裕層の割合が高くなり、寄港地に求められるものが変わるだけでなく、着岸する場所も高速道路のICから遠ざかるなど、船会社にとって四日市に寄港するメリットが小さくなり、今後の客船誘致活動は前途多難と言える。これを鑑みると、よほど魅力的なメニューが必要と思われるが、今後、四日市としてどのような魅力を船会社に売り込んでいくのか伺いたい。

●昨今、船会社は、「他に類を見ない体験」等といった寄港地観光の質の向上を求め、地元の人しか知らない観光資源等への誘客を望んでおり、その点において、四日市港は特色を打ち出していけると考えている。

○「他に類を見ないもの」とは具体的にどのようなものを考えているか。

●萬古焼が一例。自分で陶芸作りができるということが四日市らしい。

○実際に体験するといったコンテンツは、特に欧米の方には非常に好評で、今後も継続していただきたい。ただし、どれだけいいコンテンツをたくさんそろえていても、その見せ方やストーリー性がなければ、なかなかお客さんも来てくれない。その点を工夫しながら、富裕層の来訪も想定し、組み立てていただきたい。

小川政人議員



主な質問項目
・ 十四川 溢水問題
・ 常勤副管理者人事について

- 豊栄樋門排水機場排水計画検討業務委託では、東海豪雨時に豊栄樋門を開けていたら、海まで自然流下するはずだが。
- 同業務の既存排水能力の妥当性検証では、「計画規模を上回る洪水が発生した場合は、十四川の流下能力も超過していることから、河口まで流域からの流入が到達する前に、いずれかの地点で河川氾濫等の現象が発生し、算定される流下量が豊栄樋門まで到達する可能性は極めて低いと思われる。」と記載されている。
- 十四川は、北星高校から四日市高校の間は桜並木で流下能力が非常に低い。JRから豊栄樋門までは既に改修済みで、倍近い排水能力がある。同業務からいくと、流下能力が低いところを流れる水は流下能力が倍のところでは溢れない。当日溢れたのは、流下能力の低い所より低い6トンのポンプで排水をしていたから溢れた。
- 樋門を閉めて、6トンのポンプ排水だったので、溢れた。
- 樋門を閉めていた、ヒューマンエラーで十四川が溢れたのか。
- 道路冠水があり、結果的に作動できなかったのはヒューマンエラーだが、原因は道路冠水である。
- 管理組合と四日市市の委託契約では樋門は高潮以外樋門を閉めるなどになっており、契約違反が生じていた。

山崎 博議員



主な質問項目
・ 経済とくらしを考える港まちづくり
・ 競争力のある港づくり
・ 日本の大手商社の民間企業が世界で港づくりを売る理由
・ 環境に優しい港づくり

- 四日市港長期構想の基本理念である「地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくり」を実現するためには、背後圏の産業構造や都市の現況、鉄道及び主要道路計画により、四日市港の利用をどう拡大していくかが今後の課題だが、四日市港の利用促進に向けた背後圏企業の物流ニーズへの対応策と将来構想について伺いたい。
- 背後圏企業の物流ニーズを把握し、四日市港利用率を高めていくため、四日市港利用促進協議会を核とした官民一体となったポートセールスとして、四日市港セミナー等を開催するとともに、船会社や背後圏荷主企業へ個別訪問を行うなどして、ニーズ把握のための情報交換や、道路整備の進展によるアクセス向上等の四日市港利用メリットの説明を行っている。また、把握したニーズを踏まえ、入港料等の減免や補助制度といったインセンティブによる船会社への航路の維持・拡充の働きかけ、背後圏の荷主企業への補助制度による集荷拡大に努めている。今後は、北勢・中勢バイパスや東海環状自動車道西回り区間等の未整備区間の早期開通に向けた活動や、県・市と連携した新たに立地する企業への四日市港利用の働きかけなどに取り組み、さらに霞ヶ浦地区北埠頭の整備を進め、南埠頭の混雑解消や埠頭機能の再編等を図っていく。

喜田健児議員



- 主な質問項目
- ・津波対策
 - ・環境負荷低減に向けた取組
 - ・観光との連携取組

○四日市港のクルーズ船の寄港地ツアーは、クルーズ船社からも評価されているが、必ずしも地域が本当に提供したい観光地に旅客を呼び込むことになっておらず、三重県の強みである観光資源等に観光客を呼び込んでいくことが重要となる。今後は、オール三重として地元DMOや民間等とも連携したクルーズ客を呼び込むための取組についても積極的に展開していく必要があると考えるがどうか。

●管理組合も参画する三重県クルーズ振興連携協議会では、乗船客を県内各地に誘客するため、多様なツアーや地域独自の体験プログラムの企画等を行い、県内各地の魅力づくりとその発信に取り組んでいる。今後もオール三重で四日市港の背後地の魅力の向上に努め、寄港地観光ツアーの提案などを行うことで、四日市港をゲートウェイとして県内・市内の観光地をより多くの乗船客に訪れていただくよう客船の誘致に努めていく。

○民間や地域の団体、他の市町との連携を推進するためには、ソフト面の整備や、想像力やまわりを巻き込む力等を持った人材が不可欠である。また、鳥羽港や新宮港などと連携すれば、熊野古道、伊勢神宮、四日市港等三重県を縦断する企画も可能となるなど、今後、四日市港における客船誘致に当たっては、オール三重の戦略として他港にはない魅力あふれる取組について十分な検討を進めていただきたい。

荒木美幸議員



- 主な質問項目
- ・官民一体となった「四日市港の将来像」の実現に向けて
 - ・親しまれる港づくりに向けて
 - ・交流空間の充実について

○四日市港の「機能強化」と「みなとまちづくり」を考える会が設立され、四日市港の将来を考えるフォーラムでは、官民一体となった四日市港の将来像の成果報告が行われたが、管理者等の所感を聞きたい。

●フォーラムで、北埠頭の耐震岸壁整備や埠頭再編等を求める声をいただいております。今後は四日市港の「機能強化」に向けしっかり取り組んでいく。また「みなとまちづくり」では、四日市市の進めるまちづくりと連携した取組が必要であるため、関係者とも十分な連携を図りながら、「みなとまちづくりプラン」を策定するとともに、その後の取組を推進し、賑わい空間の実現を目指していきたい。

●「みなとまちづくりプラン」の策定に向け、考える会のメンバーを中心に検討を始めており、策定後も、プランを具現化できるよう、四日市港の賑わい創出を図っていく。四日市港の将来像を実現するため、関係者が「ONE TEAM」となりしっかりと取り組んでいく。

○策定に向けた取組の、進捗状況と今後の取組について教えてほしい。

●令和2年度から本格的なプラン策定に着手したいと考えており、管理組合は450万円の予算を確保した。今後は管理組合が中心となり策定作業を進めるとともに、取組を進め、港の賑わい創出につなげたい。

○管理者、副管理者の強いリーダーシップで、「みなとまちづくりプラン」策定を牽引していただき、夢の実現が早期に実現することを願う。